

新しい1年が始まりました。
本日は3学期の始業式で、12日間の長い冬休みを終え、子供たちが元気に登校してきてくれました。
やはり学校は、子供の声が響いてこそです。
今年度残りの3か月間、事故なく健やかに生活できるよう、導いてまいります。
本日の3学期始業式にて話した内容は次の通りです。

3学期始業式でのお話(令和7年1月8日)

皆さん、新年、明けましておめでとうございます。
年末、年始は、楽しくゆったりと過ごせましたか。
14日間の長い冬休みが終わり、先生たちは、元気な皆さんに会えて、とても嬉しく思っています。

年の初め、また、3学期の初めに当たり、校長先生からお話をします。
皆さん、「一年の計は元旦にあり」と言う言葉は聞いたことがありますね。
2学期の終業式の日、白岩先生が教えてくださりましたからね。
私からは、この言葉について少し詳しく話してみようと思います。

「一年の計は元旦にあり」と言う言葉は、
一年の計画は元旦に立てるとよいという意味で、これは、戦国時代の武将、毛利元就
が語ったとされている「一年の計は春にあり、一月の計は朔(ついたち)にあり、一日の
計は鶏鳴(けいめい)にあり」と言う言葉が由来になっているという説があります。

「春」はここでは正月のこと、「朔」は、月初めの日のことです。「鶏鳴」は、鶏の鳴き声
のことから一番鶏が鳴く早朝のことです。

毛利元就の言葉は、1年、1月、1日それぞれの最初のときこそが計画を立てるべきと
きであるということを使ったもので、何事も最初が肝心であるということの意味していま
す。

ここで、計画を立てて物事を行うことの大切さを、ある野球選手の生き方から学びたい
と思います。

皆さんは、アメリカの野球チーム ロサンゼルス・ドジャース所属の大谷翔平選手を知っ
ていますか。

大谷選手は多くの野球関係者から史上最高の野球選手の1人として評価されている、投手と野手を兼任する二刀流の選手で、アメリカでは、最優秀選手賞をはじめ、ホームラン王など、数々の賞を受賞している、大スター選手です。

ここまでの大スターになるまでには、元々の素質や周りの支えはもちろんのこと、大谷選手のたゆまぬ努力がありました。そしてその努力は、これからご紹介する、3つのノートに支えられていたと言われています。

まず一つ目、小学3年生くらいから5年生までつけていた「野球ノート」。

これは、お父さんと大谷選手の野球における交換日記で、大会や合宿などの節目で大谷選手が「良かったこと」、「悪かったこと」、「目標」を書き、お父さんがそこにアドバイスを書き添えていくものでした。

2つ目は、高校時代の監督からの教えにより作成した、「夢ノート」。

「8球団からドラフト1位指名を受ける」という目標を達成するために必要な手段を80ものマス目に細やかに書き込んでいます。

3つ目は、高校3年のときに作成した、年齢ごとに将来の自分が何をしているかを記した「人生設計ノート」。

そこには、なんと、70歳までの計画が書かれているそうです。

驚くのは、27歳でWBC日本代表MVPと書かれていて、大谷選手は実際、28歳でこの目標を見事達成しています。コロナ禍で大会が1年ずれ込んだことを考えると、まさに、時期までちょうどの有言実行です。

目標を明確にもち、それを文字にし、そしてそれを実現するための努力をする。大谷選手のすごさは、まさにここにあるといえます。

大谷選手は、どのノートにおいても、とても前向きで、具体的な目標を立てています。

計画は立てても、大谷選手のように、なかなか思い通りにならず、途中で立ち消えになってしまうこともあるでしょう。

しかし、無計画のままに過ごして、何もしないうちに月日が過ぎてしまい、それが積み重なって、結局何も成し遂げられない人生になってしまったとなると残念です。

「一年の計は元旦にあり」

皆さん、一年の初めに是非、この一年の、そしてこれからの人生についての計画を立てて、それを少しずつ、確かに実行していけるよう、3学期も前向きに笑顔で元気に過ごしましょう。